

シーズ分野;臨床医学 整形外科学

研究シーズ;リバーズ型人工肩関節の新術式



整形外科学講座
教授 今井 晋二

■関連文献・特許

Imai S. Restoration of External Rotation Following a Lateral Approach for Reverse Shoulder Arthroplasty with Glenoid Bony-Increased Offset Running-title: External rotation of BIO-RSA though lateral approach. JBB OA 2021 (in press)

「肩の可動域を回復できる短時間手術」

■研究概要

従来の人工肩関節置換術では、術中視野が悪く、また多くの靭帯を切る必要があったので、20%という高確率で合併症（神経麻痺、骨折等）を呈することや、約3時間にも及ぶ長時間の手術が必要でした、また、手術後も腕が上がらないことが大きな課題でした。これら課題を解決するために、私たちはリバーズ型人工肩関節を用いた新しい術式を開発しました。この新術式では関節に適度な荷重をかけることで靭帯を切る必要がない点が大きな特徴です。そのため合併症も殆ど生じず、約40分程度で手術が終了します。また、術後はリハビリによってほぼ正常レベルまで腕が上がります。

■応用展開・共同研究テーマ例

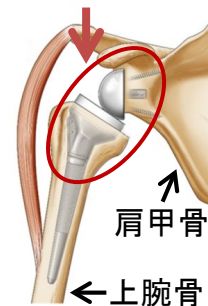
- ・日本人の体格に合った人工肩関節の共同研究開発（現在は主に欧州人用の人工肩関節を使用）

■研究者からのお願い(ニーズ)

- ・国内で製造された日本人向けのリバーズ型人工肩関節は未だありません。是非一緒に開発し、広めたいと思います。

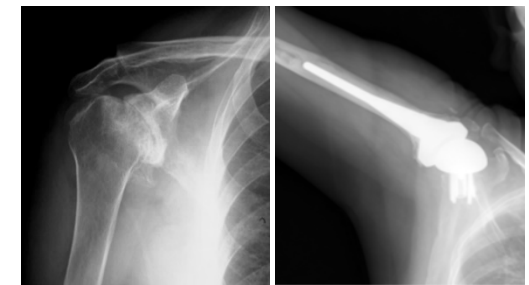
<リバーズ型人工肩関節>

リバーズ型人工肩関節



リバーズ型人工肩関節は肩甲骨側と上腕骨側の凹凸が反転しているため肩関節が安定する

<手術前後のX線写真>



左図: 術前の変形性関節症
右図: 手術後

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携担当

077-548-2847 E-mail;hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp